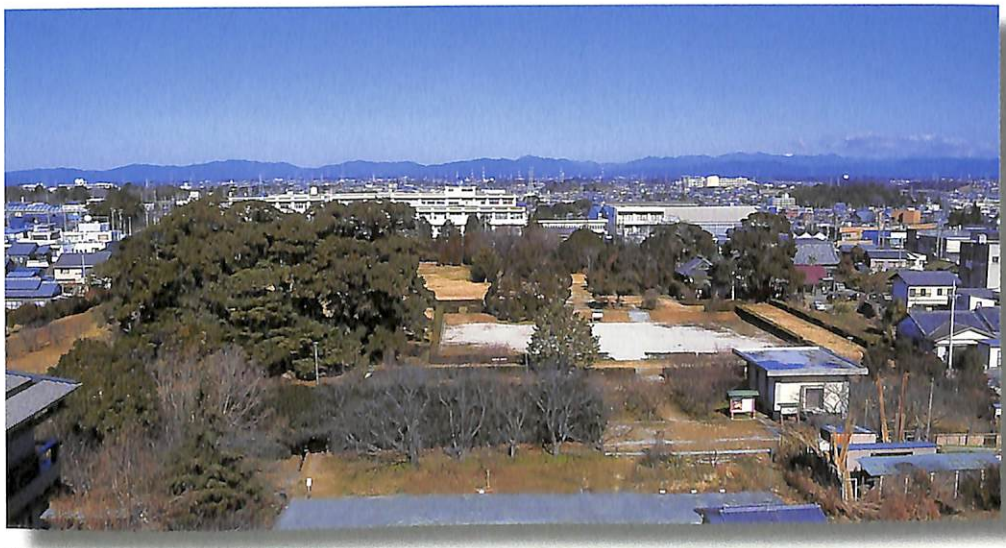
特別史跡（とくべつしせき） 遠江国分寺跡（とおとうみこくぶんじあと）

コンピュータ・グラフィックスで復元した遠江国分寺



現在の遠江国分寺史跡公園

磐田市教育委員会

国分寺とは?

奈良時代の天平13年(741年)、聖武天皇は、穀物の不作や疫病が流行していたため、仏教の力をかりてこれを取り除こうと、国ごとに僧寺・尼寺をつくるように命じました(国分寺建立の詔)。遠江では、国府(今の県庁にあたる役所)があった磐田の地に建てられました。遠江国分僧寺・尼寺は、8世紀後半に完成したと考えられます。この後、遠江国分寺については、『類聚国史』という平安時代の記録に、弘仁10年8月(819年)に国分寺焼失の記載があります。この火災は部分的であったことも考えられ、近年の発掘調査では、平安時代の中ごろ(11世紀ごろ)まで遠江国分寺は続いていたと推定されています。

昭和26年の調査で発見された遺構

昭和26年の調査により、金堂・講堂・塔・回廊・中門・南大門などの配置がわかりました。

このほかに、僧坊や鐘楼、経蔵などがあったと考えられます。

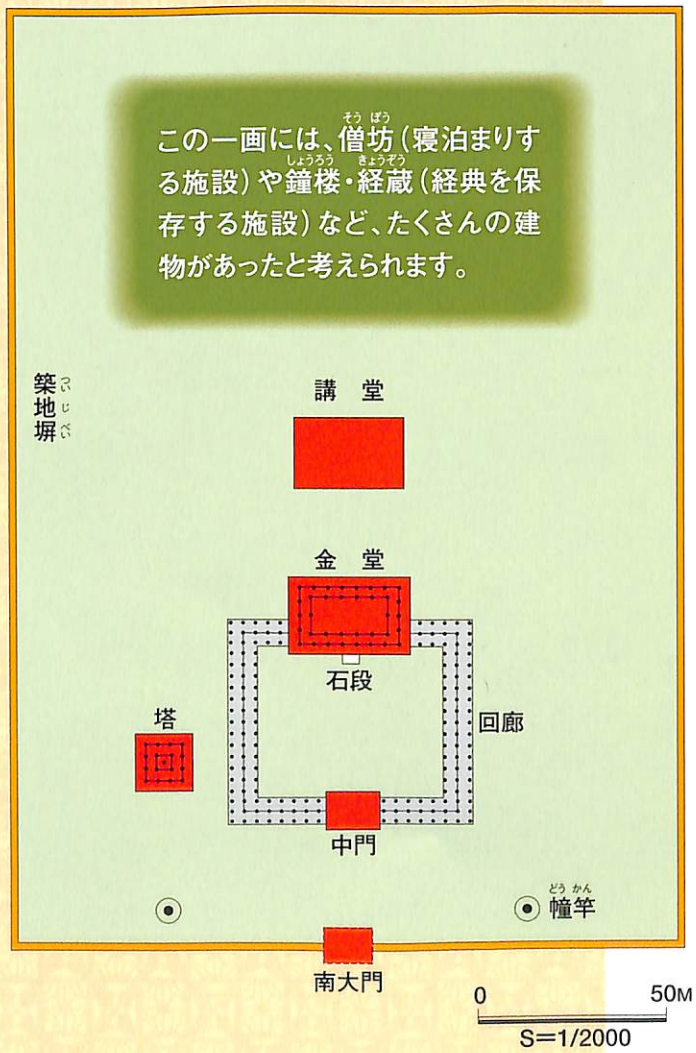
金堂跡 基壇の規模は東西約34m、南北21.5m、高さ0.9mで、正面中央で石段が発見されています。
建物は、間口7間×奥行4間(東西27.6m×南北15.6m)が推定されます。金堂は、仏像(本尊)が安置されたところです。

講堂跡 基壇の規模は東西29.7m、南北18.5m。建物の大きさは不明。講堂は、経典の講義をするところです。

塔　跡 基壇の一辺は15.8m。中心礎石と南東隅礎石が残っています。建物は9.6m四方で、高さ約66mの七重の塔と推定されます。

回廊跡 幅(奥行)7.9m、柱間3mの複廊が推定されます。

中門跡 基壇奥行10.9m、間口17mぐらいと推定されます。



これまでの調査で推定されている国分寺伽藍配置

〔最近の周辺調査で発見された遺構〕

国分僧寺 従来、国分僧寺の範囲とされた以外の場所から遺構が見つかっています。磐田南高校地内などで建物跡、また「土塁」とされた高まりの西側では、瓦が大量に入った大溝が発見されています。このため、国分僧寺の範囲は昭和26年の調査の推定よりも広く、南北253m、東西180mあったと考えられています。「土塁」は築地塀(瓦屋根のある土塀)であったと考えられます。また、伽藍地の南東隅で、幢竿(儀式の際に幟旗を立てるための竿)の位置が確認されました。

国分尼寺 国分僧寺跡北側の本町地内において、二つの基壇が確認され、尼寺の存在が確定的となりました。基壇の大きさは、講堂跡は南北17m、東西28m、金堂跡は南北22m、東西は34m程度と推定されます。その後、度重なる調査の結果、尼寺の伽藍地の西辺は僧寺の延長線上であったと考えられています。

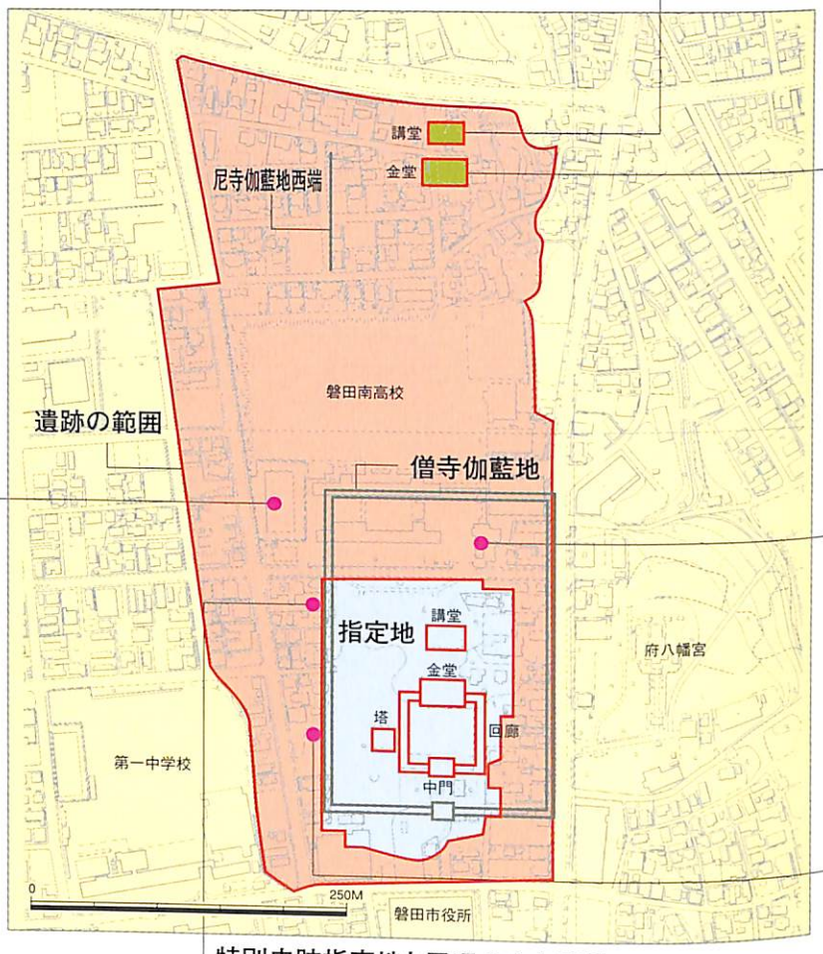
これら建物の南北の中心線は国分僧寺の建物の中心延長上にあり、計画的な配置がなされていたことがわかります。

▲金堂正面石段

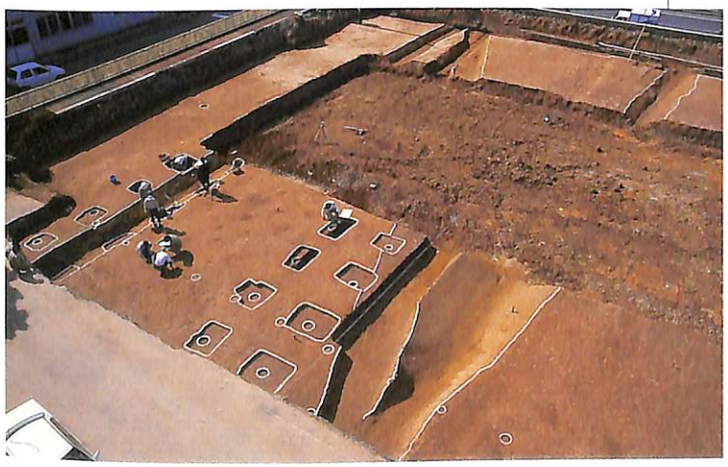
▲塔の中心礎石

▲回廊の礎石・根石（ねいし）

国分尼寺講堂跡
基壇の縁をめぐる溝状の遺構が発見された



特別史跡指定地と周辺の主な遺構



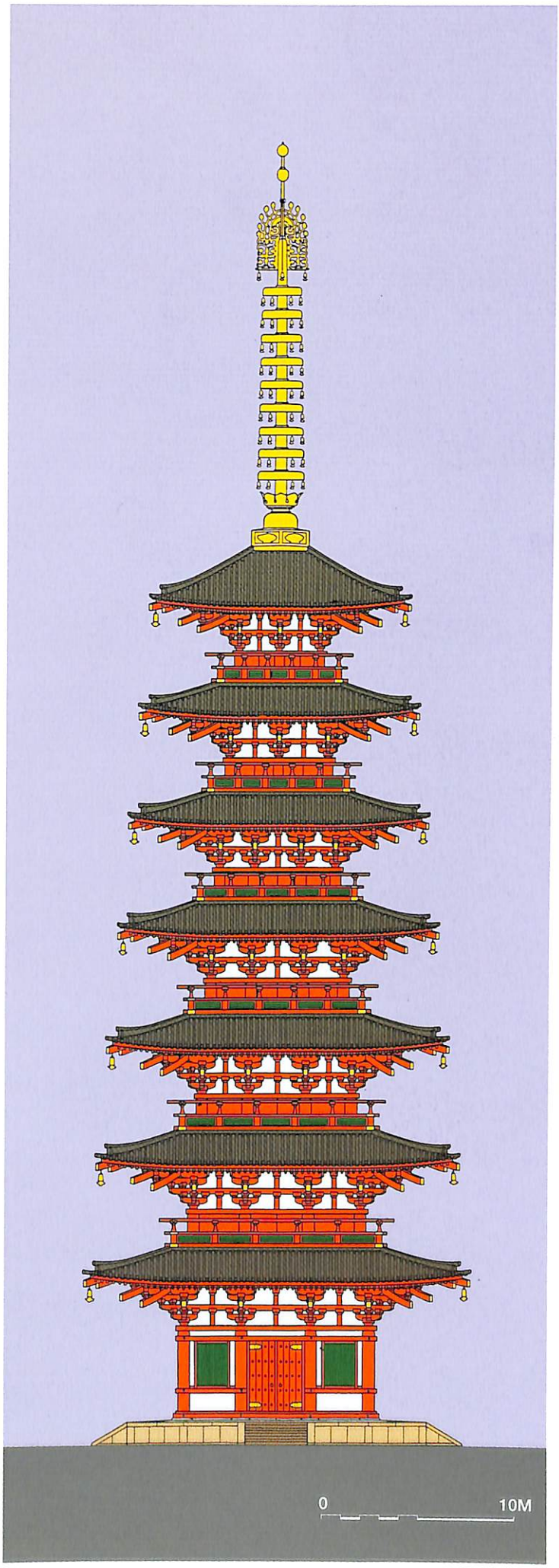
伽藍地外側で発見された庇（ひさし）付きの建物跡
9間×3間以上。仮の仏殿あるいは国分寺の建設事務所か？

築地塀西側の大溝
築地塀に沿って位置する幅約3mの大溝

国分尼寺金堂跡基壇
土を交互に積み重ねた「版築（はんちく）」が確認された

掘立柱建物跡
3間×7間以上の大型建物跡

大溝内の遺物出土状態
溝の底から奈良～平安時代の瓦が出土



七重の塔推定復元図
（提供：㈱大林組）

軒丸瓦・軒平瓦（奈良時代）

軒丸瓦・軒平瓦（奈良～平安時代）

出土遺物

国分寺から東南へ約13km離れた清ヶ谷古窯で焼かれた瓦が使われ、大量に発見されています。この瓦は他の国分寺にはみられない独特の形、文様をもっています。磐田までは船を使って運んだと考えられます。また、土器は、奈良時代の須恵器、平安時代の緑釉陶器、灰釉陶器が発見されています。これらは、僧・尼が日常使っていたものや仏具にかかわるものです。墨で文字などが書かれた墨書土器は、その土器が使われた場所や所有者などを表すものと考えられます。この他、塼と呼ばれる基壇の周囲を化粧する土製品、建築部材の釘、写経に使う硯などがあります。

土器（奈良時代～平安時代）

墨書土器「金寺」＝国分僧寺を意味する

墨書土器「講院」
講師院または講堂を示す

墨書土器（記号か?）
何を意味していると思いますか?

風字硯（すずり）
経文を写すのに使われた

THE SITE OF TOTOMI KOKUBUNJI TEMPLE

1250 years ago during the Nara period (741A.D.), Emperor Shoumu ordered about sixty Kokubunji Temples to be built throughout Japan. They are known for their Buddhist culture. According to Buddhism, the Emperor wanted to make a peaceful society. The temples were built in pairs : one was for the training of men, and the other was for women.

As this particular Totomi Kokubunji Temple was renowed for its splendor, in 1951 it was the first of its kind to be excavated in all of Japan. In 1952 it was recognized as a special national historical site (equal to a national treasure). After the excavation, within the main areas of the temple the following sites were discovered lined up from the southernmost point : the Nandai Mon (Large Southern Gate), the Chu Mon (Middle Gate), the Kondo (Central Hall), and the Kodo (Lecture Hall). A tower was also discovered on the western side of a corridor which surrounded the Kondo and the Chu Mon.

Also, a wall made of soil which enclosed all of these structures was found. Between 1968 and 1970 this area was cleared and the original foundation was restored.

遠江国分寺をめぐる年表

西暦（年号）	できごと
741年（天平13年）	国分寺建立の詔
?	国分寺完成
819年（弘仁10年）	遠江国分寺で火災（その後再建あるいは一部焼失か?）
927年（延長5年）	延喜式に「遠江国正税28万束、国分寺料3万束……」の記載
1191年（建久2年）	国分二寺修造令
1522年（大永2年）	「奉懸国分寺……」の鰐口（岩松寺所蔵）
⋮	⋮
1923年（大正12年）	史蹟指定
1951年（昭和26年）	初めての国分寺調査
1952年（昭和27年）	特別史跡に指定
1968～70年	環境整備事業
1983年（昭和58年）	南高校内で初めて建物遺構発見
1989年（平成元年）	国分尼寺講堂基壇発見
1992年（平成4年）	国分尼寺金堂基壇発見

周辺の遺跡・史跡探訪

1. 遠江国分寺跡
2. 御殿遺跡公園（奈良時代の国府推定地）
3. 澄水山古墳（磐田農高敷地内の帆立貝形の古墳）
4. 京見塚古墳（京見塚公園。古墳・埴輪窯がみられる）
5. 土器塚古墳（市街地に残る丸い古墳）
6. 兜塚古墳（かぶと塚公園。古墳がみられる）
7. 旧見付学校（現存する日本最古の洋風木造校舎）
   磐田文庫（白壁土蔵の幕末の文庫蔵）
8. 見付端城遺跡（平安時代から中世の国府推定地）
9. 一ノ谷公園（一の谷中世墳墓群の代表的な墓を復元）
10. 旧赤松家記念館（旧華族・赤松則良の邸宅跡）
11. 埋蔵文化財センター（市内から出土した埴輪や土器を収蔵）

編集・発行
磐田市教育委員会文化財課
〒438-0086　静岡県磐田市見付3678－1
TEL. 0538（32）9699
メール　bunkazai@city.iwata.lg.jp